



預言者の の 召し

2026年10月10日 第2課



「そのとき、わたしは
主の御声を聞いた。
『誰を遣わすべきか。
誰が我々に代わって
行くだろうか。』
わたしは言った。
『わたしがここに
おります。わたしを
遣わしてください。』
(イザヤ6：8新共同訳)



「わたしはまた主の
言われる声を聞いた、
「わたしはだれを
つかわそうか。だれが
われわれのために行く
だろうか」。その時
わたしは言った、
「ここにわたしが
おります。わたしを
おつかわしてください」。
(イザヤ6：8口語訳)

アブラハム（旧約聖書の最初の預言者）と洗礼者ヨハネ（新約聖書の最初の預言者）の間には、およそ1,900年の隔たりがある。

前者は「子孫」を通して契約を告げました。後者は、約束された契約を成就する「子孫」（イエス）の到来を告げました。

その間、民と神との交わりを回復し、メシアへの期待を維持するために、他の預言者たちが召されました。中には、メシアの到来の正確な時期を告げた者さえいました。

これらの預言者たちは、どのようにして選ばれたのでしょうか。彼らは預言者としての召しに、どのように応えたのでしょうか。



アブラハム: 契約の守護者



エリヤのメッセージ（回復）



イザヤ: 福音の預言者



ダニエル: 忠実な預言者



ヨハネのバプテスマ: 民を備えさせる

アブラハム：契約の守護者

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。(創世記 12:1)

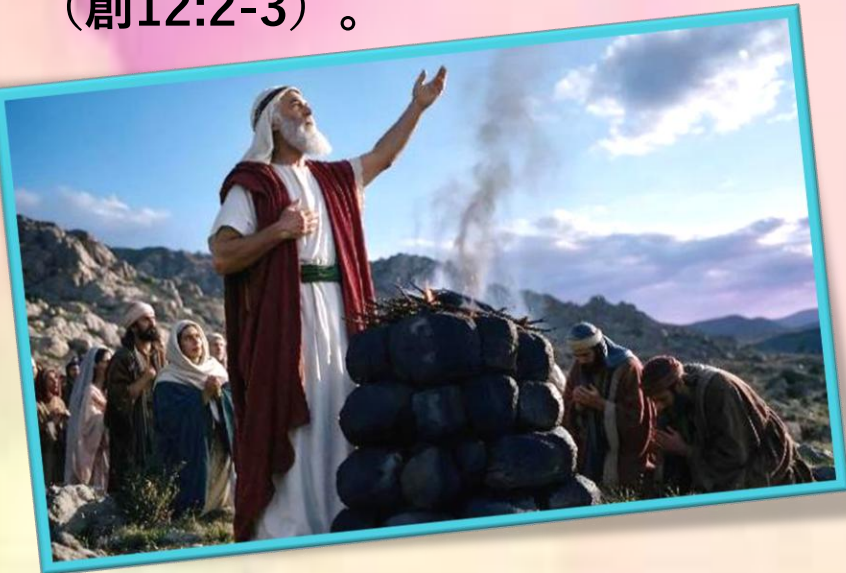
アブラハムは、「預言者」と呼ばれた最初の人物です（創 20:7）。彼は神から直接召され、周囲に蔓延していた偶像崇拝や不道德を捨てて、未知の地へ向かうよう求められました（創 12:1）。

その召命とともに、いくつかの約束が与えられました。彼は神の祝福を受け、高められることになり、また彼を通して、その祝福は「地上のすべての民族」に及ぶことになることと約束されました（創12:2-3）。



彼はその呼びかけにどのように応えたのでしょうか。「信仰によって、アブラハムは、相続地として与えられる場所へ出よという呼びかけに従いました。そして、どこへ行くのかを知らずに、出て行ったのです」（ヘブ 11:8）。

預言者として、アブラハムは差し迫った災難を告げるために召されたのではなく、真の神を人々に知らしめ、メシアによる救いの約束を明らかにするために召されたのです。



アブラハム：契約の守護者

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。(創世記 12:1)

カナンに滞在中、アブラハム（元の名はアブラム）は神と何度か出会い、そのたびにさまざまなメッセージを受け取った。



シェケムで、彼の子孫がカナンの地を相続することになると約束された (創 12:6-7)



ベテルで、神は彼との契約を新たにし、彼の子孫は「地の塵」のようになるだろうと告げられた (創13:14-18)



マムレで、彼の子孫は星のように数えきれないほど多くなると約束されました。「アブラムは主を信じ、主はそれを彼の義と認められた」 (創 15:1-6)



まさにその瞬間、神はアブラムと契約を結び、犠牲の群れの間を通り抜かれた (創 15:7-21)



神は彼とサラの名前を変え、彼の子孫はサラの息子であることを彼に約束された (創 17:1-8、15-16)



神は、二人の天使とともにアブラハムの前に実体として現れ、イサクの誕生を告げられた (創18:1-2、10)。



神はアブラハムに、息子のイサクを犠牲として捧げるよう求められました。代わりのいけにえが与えられたことによって、贖いの偉大な計画がアブラハムに明らかにされたのです (創22:1-3、9-13)。

聖書には、アブラムは「主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」〔口語訳「主を信じた。主はこれを彼の義と認められた」〕
(創**15:6**) と記されています。

この聖句には、福音の約束がどれほど力強く明らかにされているとあなたは考えますか。

また、ここから、あなた自身にとってどんな希望を見出すことができますか。

エリヤのメッセージ（回復）

エリヤは民に、こう語りかけました。「いつまで迷っているのか。イスラエルの主がほんとうの神なら、主に従いなさい。もしバアルが神であれば、バアルに従いなさい。」。(列王記上 18:21)



アハブとイゼベルは、イスラエル国民を深刻な背教へと導いてしまった。神に仕えていたのはごくわずかであり、残り的人々はバアルやアシェラ、その他の神々を崇拝していた。そのような状況の中で、神は預言者エリヤを召し、選民との関係を回復させた（王上17:1）。



数年にわたる干ばつの後、エリヤはイスラエルの民をカルメル山に招き、神のもとへ立ち返るよう促しましたが、彼らはそれに応じませんでした（王上 18:21）。彼らが真の神を認めるには、奇跡が必要でした（王上 18:30-39）。

預言者エリヤのメッセージ——偶像崇拝を捨て、神に立ち返るよう呼びかけるもの——は、再臨の前に再び力強く宣べ伝えられるでしょう。その主な目的は、家庭の祭壇を回復することにあります（マラ 4:5-6）。



家族を通じて、教会、地域社会、そして国々に礼拝が回復されるでしょう。この働きを成し遂げるのは誰でしょうか？あなたと私が、今日の社会が必要としているエリヤなのです。



今日、私たちの家庭、心、そして教会には、
もしあるとすれば、どのような偶像が存在
しているのでしょうか。

イザヤ：福音の預言者

わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。
そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。(イザヤ 53:6)



イザヤは、民に自分の罪を認め、神の赦しを受け入れるよう求めるよう召されました（イザ 1:18）。



ウジヤ王が亡くなった際、イザヤは自身の預言者としての務めを通じて心に刻み続けることになる、印象深い幻を見ました。それは、神が聖なる神殿におられるという幻であり、神殿の敷居が揺れ動く中、預言者自身の心もまた、自らの不完全さゆえに激しく揺さぶられるというものでした（イザ6：1-5）。

罪を赦された彼は、恐れずに神の御言葉を宣言することができた。
「ここにいます。私をお遣わしてください」（イザ 6:6-8）。

彼の長い宣教活動には、悔い改めへの呼びかけだけでなく、とりわけメシアであるイエスの御業を宣べ伝えることも含まれていた。



当然のことながら、
イザヤ書は「原福音」
（すなわち、福音書に
先立つ福音）と呼ばれて
います。



イザヤ:福音の預言者

わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。
そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。(イザヤ 53:6)

イザヤ書第53章には、イエスによって成し遂げられた贖いの計画について、
詳しく説明されています：



彼の魅力は肉体的なものではなく、霊的なものであった(2節)。



彼は軽蔑され、打ち砕かれ、見捨てられた(3節)



彼は大勢の人々を癒やしたにもかかわらず、彼らは彼を受け入れなかった(4節)



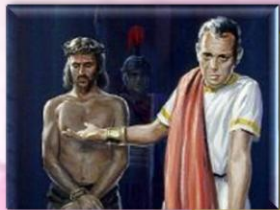
十字架上の死を通して、主は私たちに救いをもたらしてくださる(5節)



神は私たちのすべての罪を彼に負わせられた(6節)



彼は告発者たちの前で自分をかばおうとはしなかった(7節)



彼は裁判にかけられ、死刑を宣告された(8節)



彼は裕福な人々とともに葬られた(9a節)



彼は決して罪を犯さなかった。(9節b)



彼は贖いの死を経て、再びよみがえった(10節)



いつの日か、彼は自分が贖った者たちと共に暮らすことになる(11節)



その間、私たちのために執り成してくださる(12節)

イザヤ書 53 章を読み返し、そこに描かれている、イエスさまが私たちのためにしてくださったことをすべて書き出してください。

53:1 わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるか。 **53:2** 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように/この人は主の前に育った。見るべき面影はなく/輝かしい風格も、好ましい容姿もない。 **53:3** 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ/多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し/わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。 **53:4** 彼が担ったのはわたしたちの病/彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに/わたしたちは思っていた/神の手にかかり、打たれたから/彼は苦しんでいるのだ、と。 **53:5** 彼が刺し貫かれたのは/わたしたちの背きのためであり/彼が打ち砕かれたのは/わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって/わたしたちに平和が与えられ/彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。 **53:6** わたしたちは羊の群れ/道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて/主は彼に負わせられた。 **53:7** 苦役を課せられて、かがみ込み/彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように/毛を刈る者の前に物を言わない羊のように/彼は口を開かなかった。 **53:8** 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか/わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり/命ある者の地から断たれたことを。 **53:9** 彼は不法を働かず/その口に偽りもなかったのに/その墓は神に逆らう者と共にされ/富める者と共に葬られた。 **53:10** 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ/彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは/彼の手によって成し遂げられる。 **53:11** 彼は自らの苦しみの実りを見/それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために/彼らの罪を自ら負った。 **53:12** それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし/彼は戦利品としておびたらしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死んで/罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い/背いた者のために執り成しをしたのは/この人であった。

キリストの死が私たちに成し遂げたことについて、預言者が明らかにしたことから、あなたはどのような大いなる希望を受け取ることができますか。

ダニエル：忠実な預言者

だが、秘密を明かす天の神がおられ、この神が将来何事が起こるのかをネブカドネツアル王に知らせてくださったのです。(ダニエル 2:28a)

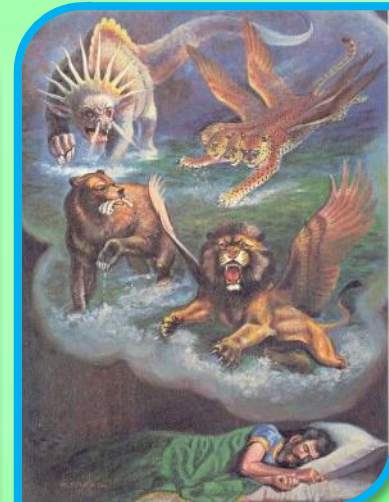
ダニエルは当初より、その忠実さによって知られていました。彼は食事においても忠実；神に栄光を帰することにおいても忠実；ネブカドネツアル王に災いを予告することにおいても忠実；ベルシャザル王の罪を糾弾することにおいても忠実；祈りの生活においても忠実でした
(ダニ 1:8、 2:27-30、 4:19、 5:22-23、 6:10)。



彼は自らの生涯を通じて伝えたメッセージに加え、バビロン、ペルシャ、ギリシャ、ローマ、そしてヨーロッパといった偉大な世界帝国たちの興亡を告げ知らせよう召されていた (ダニ 2:7-12)。

ダニエルは、諸帝国の預言と織り交ぜながら、裁き (ダニ 7:9-10) と、イエスの初臨の正確な時期 (ダニ 9:24-27) を告げました。

彼の預言は、今日、私たちがいまだ成就されていない部分、すなわち神の御国の到来 (ダニ 2:44、 7:27) の成就を宣べ伝える助けとなっています。



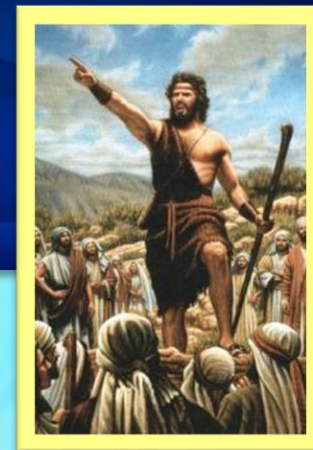
ダニエル書 2 章に登場するすべての王国は、預言通りに現れては消えていきました。

2:37 王様、あなたはすべての王の王です。天の神はあなたに、国と権威と威力と威光を受け、**2:38** 人間も野の獣も空の鳥も、どこに住んでいようとみなあなたの手にゆだね、このすべてを治めさせられました。すなわち、あなたがその金の頭なのです。**2:39** あなたのあとに他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その次に興る第三の国は青銅で、全地を支配します。**2:40** 第四の国は鉄のように強い。鉄はすべてを打ち砕きますが、あらゆるものを破壊する鉄のように、この国は破壊を重ねます。**2:42** 足指は一部が鉄、一部が陶土です。すなわち、この国には強い部分もあれば、もろい部分もあるのです。**2:43** また、鉄が柔らかい陶土と混じり合っているのを御覧になったように、人々は婚姻によって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合うことがないように、ひとつになることはありません。**2:44** この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます。**2:45** 山から人手によらず切り出された石が、鉄、青銅、陶土、銀、金を打つのを御覧になりましたが、それによって、偉大な神は引き続き起こることを王様にお知らせになったのです。この夢は確かであり、解釈もまちがいございません。」

次に神の永遠の御国が到来すると告げる預言（ダニエル **2:44**）を信頼することについて、このことは私たちに何を教えてくれるのでしょうか。

洗礼者ヨハネ：民を備えさせる

ヨハネは、預言者イザヤの言葉を用いて言った。
「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。『主の道をまっすぐにせよ』と。」(ヨハネ 1:23)



サムエルやエレミヤといった他の預言者たちと同様、ヨハネも生まれる前から神に選ばれていました。彼は、メシアの先駆者として、エリヤの務めを果たすよう召されたのです（ルカ1:13-17）。



彼の質素な生活、そして罪を告発し、悔い改めを切実に呼びかけるという確固たる信念により、多くの人々が洗礼を受けた（マコ1:4-6）。彼の働きはイスラエルにおける転換点となり、悪魔はそれに対抗する術がなく、ただこの預言者を死に至らしめることしかできなかった（ルカ9:9）。

ヨハネの働き（それはエリヤの働きでもある）は、今や私たちの働きとなっています。私たちは、イエスの贖いの死による悔い改めと救いの福音をすべての人に宣べ伝えることによって、イエスの再臨に備えるよう召されています。

決してバラ色の人生ではありません。忠誠心、信念、そして献身が求められます。安全は保証されていませんが、永遠の命は保証されています（私たち自身の命、そして今日このメッセージを受け入れる人々の命も）。



まるでヨハネが投獄されていた時のように、
なぜあなたにこれほどひどいことが起こる
のか、どうしても理解できないという状況に
陥ったことはありますか。
そんな時、どのようにして神への信仰と信頼
を保ち続けましたか。

「人類のための神の永遠のご計画を明らかにした預言者たちが語った勧告と警告の言葉は、神のぶどう畑の管理者である今日の地上の教会にとって、特別に価値のあるものである。預言者たちの教えの中に、失われた人類に対する神の愛と、彼らの救いに対する神のご計画が明らかにあらわされている。[...]そして、今日、神の教会、すなわち、忠実な農夫たちとして神のぶどう畑の働きに従事している者に対する神のみ言葉は、昔の預言者が語った言葉以外の何物でもない。

「麗しきぶどう畑よ、このことを歌え。主なるわたしはこれを守り、常に水をそそぎ、夜も昼も守って、そこなう者のないようにする」
(イザヤ27:2、3)」

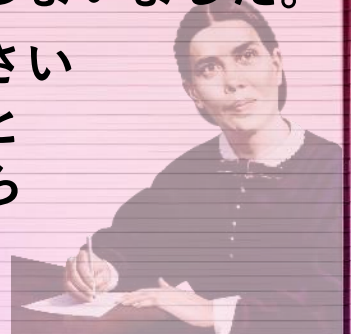
金曜日：エレン・G・ホワイトの預言的召命

エレン・グールド・ハーモンは、1844年12月、17歳のときに初めて幻を与えられました。

ウィリアム・ミラーは、ダニエル書8章14節の預言を、1843年にイエスが再臨することを告げるものとして解釈しました。その後、1844年10月22日がその日と確信しました。しかし、イエスは来られませんでした。

そのような状況の中で、エレンにはこの地から天のエルサレムへと続く道が示され、アドベンチストの信者たちはイエスの導きに従って聖都へと旅を続けていました。もし彼らの目がイエスに注がれたままであれば、その道を歩み続けることができました。しかし、目をそらしてしまうと、その道から外れてしまいました。

この幻を通じて、神は信者たちに、自分たちが正しい道を歩んでいることを確信させてくださいました。当初、エレンの言葉を信じる者はほとんどいませんでしたが、やがて彼女は預言者として認められるようになりました。彼女のメッセージは、アドベンチスト教会の創設当初から信徒たちを励まし、導いてきました。そして、その役割は今日に至るまで続いています。



Hopeチャンネル動画Tell the World（日本語字幕付き）

第4話 「試される信仰・神からの幻」 （24分10秒）

現在**200**以上の国に**1900**万人以上の信徒がいるセブンスデー・アドベンチスト教会は、聖書の預言解釈の誤解から生じた**1844**年の大失望の後に誕生しました。それらの出来事を史実に基づいて再現した壮大な感動の映画です。オーストラリアのセブンスデーアドベンチスト教会により作成されました。 **HopeチャンネルJapan**から（日本語字幕付き）で見ることができます。第4話はエレンハーモンが最初の幻を示された当時の出来事が史実に基づいて再現されています。

- 第4話のリンクです。全6話が続けてみることもできます。（2時間34分）
- 下記リンクをコピーしてグーグル等で検索して頂ければ動画を視聴することが出来ます。
- <https://www.hopechannel.jp/hope-channel%E5%8B%95%E7%94%BB/tell-the-world%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E5%AD%97%E5%B9%95%E4%BB%98/%E7%AC%AC-4-%E8%A9%B1%E3%80%8C%E8%A9%A6%E3%81%95%E3%82%8C%E3%82%8B%E4%BF%A1%E4%BB%B0%E3%83%BB%E7%A5%9E%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%AE%E5%B9%BB%E3%80%8D>

